第３章　川の物理的な環境と変化

ポイント：
川の流れには土砂を侵食、運搬そして堆積する作用があります。そして、流れは常に変動を繰り返し、これら３つの作用によって、川には多様な環境が形成されます。このような多様な環境を利用して、川には川独特の多様な生物が生息しているのです。

３－１　吉野川の風景

同じ川でも、川の姿は場所によって違います。しかし、日本の大きな川を考えるとき、上流、中流、下流の姿は、私たちに共通したイメージを想像させます。

上流では川幅が狭く、河床には大玉石や巨石がみられ、河道は山間をぬうように屈曲して流れています。
河床や河岸には岩が露出しています。

（吉野川支川　銅山川）

中流では、川幅が広がり、河床には玉石や砂利がみられ、砂州の形成が進み、緩やかに蛇行して流れます。
また、川の中には島状の土地がみられます。

（吉野川
美馬中央橋の上流）

下流になると、川幅はさらに広がり、流れは緩くなります。河口には、干潟が広がっています。

（吉野川河口　吉野川大橋の下流）

吉野川の風景がどのように変化しているのか、池田ダムから下流に向かって見てみましょう。

（池田ダム下流）
河口より７８ｋｍ上流

川の両岸に山が迫っています。

（美濃田大橋の下流）
河口より７１ｋｍ上流

両岸は切り立った崖です。

（三三大橋の下流）
河口より６８ｋｍ上流

次第に河岸の勾配が緩くなり、
河原が広がります。

（東三好橋の下流）
河口から６０ｋｍ上流

池田ダムから岩津までの区間は、水際に竹林が連続して植えられています。竹林によって、水際と高水敷は分断されています。
連続した水際の竹林は、吉野川を代表する景観です。

（美馬中央橋）
河口から５１ｋｍ上流

ここまで下流に来ると、両岸の山もだいぶ遠くに見えるようになります。川は、砂州の間を緩やかに蛇行しています。典型的な中流の風景になります。このような風景は、柿原堰まで続きます。

（柿原堰下流）
河口から２３ｋｍ上流

柿原堰から第十堰の間は、河原に緑が多く見られます。砂州の上流側は石礫で覆われていますが、下流側になるとアカメヤナギを始めとする樹木が多くなります。シナダレスズメガヤのような外来の草が、砂州を広く覆っている場所もあります。

（一条南橋下流）
河口から２０ｋｍ上流

対岸の砂州は、アカメヤナギで覆われています。かつては、礫だったはずです。

（高瀬橋上流）
河口から１８ｋｍ上流

砂防の法面緑化などに広く利用されているシナダレスズメガヤが、砂州を広く覆っています。

（高瀬橋上流）
河口から１８ｋｍ上流

砂州の中に池のような空間が広がっています。流れがある吉野川本川の景観とは全く異なります。

（高瀬橋下流）
河口から１７ｋｍ上流

高水敷は耕作地や採草地として利用されています。砂州はアカメヤナギで覆われています。柿原堰より上流の景観とは、大きく異なります。

（第十堰上流）
河口から１５ｋｍ上流

高水敷は採草地として利用されています。

（名田橋上流）
河口から１１ｋｍ上流

高水敷は耕作地として利用されています。

（吉野川橋梁下流）
河口から７ｋｍ上流

第十堰から下流は､汽水域です。潮の干満の影響を受けて、水際には干潟が広がっています。満潮時には、草がある位置まで水位が上昇します。

（吉野川大橋下流）
河口から３ｋｍ上流

高水敷はグラウンド等の施設が整備され、市民のレクリエーションの場として、親しまれています。

（河口）

吉野川の河口には、大規模な河口砂州が広がっています。